

第三項 二十七、八年戰役ヨリ大正初頭ニ互ル時代

第一目 序 説

本時代ノ初頭我海軍ニ於テ長期ニ互リ未決状態ニ置カレタル魚雷ノ型式ニ一大英斷ヲ與ヘ水雷兵器進歩ノ基礎ヲ確立スルニ至リシモノニシテ造兵諸廳ノ發展及技術ノ向上ト相俟ツテ漸次獨自ノ考案ヲモ加味シ得ルニ至リ魚雷界ニ於ケル少年時代ニ始リ青年時代ヲ經過セル期間ナリト稱シ得ベシ即チ本時代ニ於ケル顯著ナル進歩ヲ約言セバ概ネ左ノ如シ

- 一、保式專用ノ方針確立シ之ガ進歩發達ノ基礎ヲ確立シ得タリ(二十八年)
- 二、三十年富士、八島ノ着邦ト共ニ保式十八吋(四十五糎)魚雷ヲ我海軍ニ初輸入セルコト
- 三、三十七、八年戰役ノ體驗ニ依リ造兵上ニ於テモ多大ノ教訓ヲ窺チ得タルト共ニ魚形水雷改良調査會及其ノ他ノ研究調査機關ニ依リ關係兵器ノ改善ニ資セルトコロ大ナリシコト
- 四、三八式一號ノ如キ我國ノ意匠ヲ加ヘタル新魚雷ノ創製ヲ見ルニ至リシコト(四十年)
- 五、加熱裝置及噴水加熱裝置ヲ應用シ魚雷能力ノ躍進ニ資シ得タルコト
- 六、五十三糎魚雷ノ試製ニ成功シ之ヲ採用シ四四式魚雷ヲ完成セルコト

斯クノ如ク本時代ハ我魚雷發達上ニ貢獻セル顯著ナル一期間ナリシハ論ナキモ而カモ之ヲ大處ヨリ觀ルトキハ尙之ヲ保式專用及保式模倣時代ト稱スルヲ妥當トスベシ